

科 目 名		学 年	単 位	授 業 時 間	科 目 区 分	授 業 形 態	学 修 単 位	
美術: Fine Art		1MESC B	1	50分×30回	履修	講義・通年	—	
教 員 名		村上芳明: MURAKAMI Yoshiaki						
授 業 概 要	美術の基本は自分の身の回りの世界に関心を持ち、興味を持ったものをどれだけ、自らの感性という目で探求することができるかということである。日常的に見慣れたものでも、あらためてよく観察し、自分の感性というフィルターを通して表現すると、それまでは気がつかなかった新しい世界を創造できたりするものである。この授業では「描く」「つくる」「表現する」「鑑賞する」といった行為を通して、自分の感性を磨き、そしてそれを表現することについて学ぶ。							
到 達 目 標				評 価 方 法				
(1)デッサンを通して対象物を観察し、表現する技術を身につける。 (2)色彩学を通して、色の成り立ち、応用を理解する。 (3)プロダクトデザインを通して、工業製品と人との良い関係の中に美術という分野からのアプローチの方法があることを学ぶ。				各期末試験と実技作品①②③④の内容により評価する。ただし、それ以外の授業中に作成した作品や自学自習により作成した作品も評価の対象とする。 期末試験40%、提出作品60%とする。				
学 習 ・ 教 育 目 標		(F)	JABEE基準1(1)		—			
授 業 計 画	回	項 目	内 容		回	項 目	内 容	
	第1	授業の目的・意義	1年間の授業の概要について説明する。		第16	鑑賞	デザインの世界 ビデオを使って	
	第2	デッサン	鉛筆の使い方。簡単なドローイング。		第17	デザイン	身近なもののデザインⅠ アイデアデッサン	
	第3	〃	素描Ⅰ 形の捉え方のトレーニング。		第18	〃	身近なもののデザインⅡ 2点透視図法の応用	
	第4	〃	素描Ⅱ 形の捉え方のトレーニング。		第19	〃	身近なもののデザインⅢ コンセプトスケッチ(下描き)	
	第5	〃	素描Ⅲ 形の捉え方のトレーニング。		第20	〃	身近なもののデザインⅣ コンセプトスケッチの作成	
	第6	〃	身近なもののデッサンⅠ		第21	〃	身近なもののデザインⅤ コンセプトスケッチ(着色)	
	第7	〃	身近なもののデッサンⅡ 鉛筆によるグラデーション		第22	〃	身近なもののデザインⅥ 実技作品③提出	
	第8	〃	身近なもののデッサンⅢ 実技作品①提出		第23	鑑賞	プロダクトデザインの世界 ビデオを使って	
	第9	鑑賞	ビデオを使って		第24	プロダクト デザイン	プロダクトデザインⅠ アイデアデッサン	
	第10	色彩学	色鉛筆によるグラデーション(彩度) 色鉛筆の使い方。混色の方法。		第25	〃	プロダクトデザインⅡ コンセプトスケッチ(下描き)	
	第11	〃	色鉛筆によるグラデーション(色相)		第26	〃	プロダクトデザインⅢ コンセプトスケッチの作成	
	第12	〃	4純色によるグラデーションⅠ		第27	〃	プロダクトデザインⅣ コンセプトスケッチの作成	
	第13	〃	4純色によるグラデーションⅡ		第28	〃	プロダクトデザインⅤ コンセプトスケッチ(着色)	
	第14	〃	4純色によるグラデーションⅢ 実技作品②提出		第29	〃	プロダクトデザインⅥ 実技作品④提出	
第15	まとめ	学習事項まとめ		第30	まとめ	学習事項まとめ 授業評価アンケート		
自学自習の内容		随時、授業の課題を引き続き制作し、完成させる。スケッチブックに作品を描くという課題。						
関連科目								
教科書		高校美術Ⅰ(日本文教出版株式会社)						
参考書								
授業評価・理解度		最終回到授業評価アンケートを行う。						
副担当教員		岩元修一						
備考								